

みんなで作る里山プロジェクト

2024年7月8日9日
Episode. 9

あすなる しぜん便り

原寸
博物誌

あすなるしぜん探検隊

菅生沼やあすなるの里の動植物をしぜん探検隊が主体となり、「自分の力」で調べ(調査し)、記録を重ねていく体験事業です。みんなの知識を集約しながら互いに勉強します。ステップ・バイ・ステップで大きなデータベースを作ることをめざします。

イノシシの足跡／長谷川としえ

虫



▲夜の探検隊出発(7月)



▲夜の森での同定会(7月)



▲新たな虫が来ていないかチェック(8月)



▲同定中のひと休み(8月)

7月

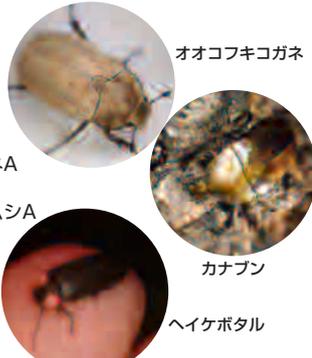
●大塚戸町 篠山地区 十一面観音南側クリ林
7月13日(土) 19:00~21:00 曇/中くらいの風/25℃
【A班調査員】杉岡和樹、藤井啓、川島智至、宮崎健介、小玉凌我、萩柗和
【B班調査員】沢田明衣、関健太郎、上山裕平、高見功輝
【リーダーいすれも】常総みどりの会(上山耕平)

観察した種

チョウ目
スズメガの仲間A
ヤマトシジミB
ウンモンクチバ?B
ゴキブリ目
モリチャバナゴキブリA
カマキリ目
オオカマキリA
バッタ目
ツチイナゴA
ヤブキリB
ショウリョウバッタ幼虫B
カメムシ目
ニイニゼミA
カゲロウ目
ツノトンボA

トンボ目
シオカラトンボAB
アキアカネB
ノシメトンボB
オオアイトトンボB
コウチュウ目
ウスバカミキリA
シノスジカミキリA
コクワガタA
オオコフキコガネA
カナブンA
ノコギリカミキリA
アカピロウドコガネA
オオスジコガネ?A
カントウアオオサムシA
カブトムシA

ミヤマカミキリB
アオドウガネB
アカアシオオカミキリB
ホソカミキリB
ヘイケボタルB



ニイニゼミの脱皮殻

ヘイケボタルが綺麗だった。光るところの数(一ヶ所か二ヶ所)でオスカメスカが分かった。夏の夜の森は、甲虫がたくさんいてワクワクした。
守谷市/高見功輝さん

リーダーのメモ

前半はホタルの観察・採集と雑木林の中を散策した。日中と異なるカミキリの仲間を数多く捕まえることができた。後半はライトトラップに寄ってきた昆虫を採集し、樹液に集まるものと光に寄ってくるもの、習性の違う昆虫を確認することができた(上山)。

8月

●菅生沼天神山公園
8月10日(土) 19:00~21:00 曇/弱風/27℃
【A班調査員】杉岡和樹、藤井啓、川島智至、宮崎健介、小玉凌我
8月24日(土) 荒天のため中止
【リーダー】常総みどりの会(上山耕平)

観察した種

チョウ目
シロスジアオヨトウ
カマキリ目
ハラビロカマキリ
コカマキリ
バッタ目
クサキリ
ヒメギス
ハヤシノウマオイ
カメムシ目
イネクロカメムシ
コシマゲンゴロウ
ハネナガマキバサシガメ
クロスジグンバイウンカ
トンボ目
シオカラトンボ
アイトトンボ
ウチワヤンマ

アミメカゲロウ目
ツノトンボ
ホシウスバカゲロウの仲間
コウチュウ目
ムツボシテントウ
クサキリ
クサキリ
シロスジアオヨトウ
ハネナガマキバサシガメ
ムツボシテントウ



ライトトラップであんなにたくさんの虫が集まっているのは初めて見ました。イネクロカメムシがいっぱいいっぱいいました(鼻に入るくらい)。コシマゲンゴロウも飛んできました。
古河市/宮崎健介さん

※探検隊カウント
イネクロカメムシは、およそ1,000頭いた!

9月

●逆井城跡公園
9月1日(日) 9:30~12:00 曇/弱風/26℃
【A班調査員】杉岡和樹、宮崎健介、小玉凌我
9月7日(土) 9:30~12:00 曇/弱風/33℃
【B班調査員】沢田明衣、上山裕平、高見功輝、関健太郎、萩柗和
【講師いすれも】坂入真史
【リーダーいすれも】常総みどりの会(上山耕平)



観察した種
チョウ目
ナミアゲハAB
アオスジアゲハAB
ヒメジャノメA
キタキチョウA
ムラサキシジミAB
ルリタテハA
サトキマダラヒカゲA
モンクロシャチホコ幼虫AB
ヒカゲチョウB
キタテハB
チャバナセセリB
コシロシタバB
コムシジB
オオミズアオ遺骸B
アカボシゴキョウモンB
アカボシゴマダラB
ゴキブリ目
モリチャバナゴキブリA
カマキリ目
オオカマキリB
ハラビロカマキリB

バッタ目
エンマコオロギAB
ショウリョウバッタAB
クビキリギスA
クルマバッタモドキB
カメムシ目
ツクツクボウシA
アブラゼミ遺骸AB
ミンミンゼミA
ホソヘリカメムシA
ムラサキシラホシカメムシA
ヨコツナサシガメAB
ヒグラシ遺骸B
トンボ目
ウスバキトンボA
アジアイトトンボAB
ホソミイトトンボAB
アオイトトンボA
ハグロトンボA
ノシメトンボAB
シオカラトンボAB
ギンヤンマAB

ナツアカネB
ハグロトンボB
コノシメトンボB
コウチュウ目
クロナガゴミムシA
スジアオゴミムシA
メダカチビカワゴミムシA
コクワガタAB
ノコギリクワガタAB
サトコムアシゴミムシダマシB
アトボシアオゴミムシB
ヤマトタマムシ遺骸B
ハチ・ハエ目
ハリフトシリアゲアリAB
クロヤマアリB
ヒラフシアリB
クオアリB
アメリカアリB
オオハラナガツチバチB
クロクサアリの仲間B



樹皮を動き回る小昆虫をキャッチ(9月) 虫より俊敏な探検隊(9月)

リーダーのメモ

この地にはかつて「飯沼」と呼ばれる広大な沼があり、逆井城は標高20メートルほどの台地に存在したとされています。私たちがこれまで観察してきた菅生沼は、河川区域としては「飯沼川」であり、はじめに、「飯沼」の下部から利根川まで土地を掘り、人工河川「飯沼川」がつけられたとされます。近似的な環境からか、過去、里山プロジェクトで観察した昆虫が多く観察できました。中でもコノシメトンボは絶滅が心配されるトンボ科アカネ属の一種です(坂入)。

昆虫の先生から
今年度の夏は特に暑い日々が続きましたね。私は毎月2回、常総市のチョウのセンサス調査をしています。10年前に行った結果と比べるとチョウの種類数はそれほど大きな変化はなかったのですが、個体数が激減していました。あすなるの里ではどうでしたか? 種類はよく出そろっているようですね。コノシメトンボは2001年の旧水海道市での調査では確認できなかったトンボです。近隣市町村でも、非常に数少ない種です。丹念に昆虫調査をされている成果の一つですね。これからも秋の昆虫調査がんばってください。期待しています。
ミュージアムパーク茨城県自然博物館/石塚 武彦

植物



▲ヤマユリ！甘い匂い(7月)



▲カヤツリグサ科の構造を学ぶ(8月)



▲お弁当のあとはいつもの同定会(9月)



▲メモ中の植物チーム(9月)

7月

7月7日(日)8:30~11:00 晴/弱風/28℃

●水海道あすなるの里遊びの森

【調査員】福田藍斗

【リーダー】坂入真史

観察した種(○印は探検隊が撮影した植物)

- | | |
|--------------|-------------|
| アサザ(植栽)(花) | ヌスビトハギ(花) |
| アキノタムラソウ(花) | ノカンゾウ(花)○ |
| アジサイ(植栽)(花) | ノササゲ(花) |
| ウマノスズクサ(葉) | ノヤマトンボ(花) |
| ウラジロチチコグサ(花) | ハエドクソウ(花) |
| エゾノギシギシ(花) | ハキダメギク(花) |
| オオイヌノフグリ(花) | ヒメジョオン(花) |
| オウタチカタバミ(花) | ヒメヤブラン(花) |
| ケツネノボタン(花) | ヒメヨツバムグラ(花) |
| シロツメクサ(花) | ヒヨドリバナ(花) |
| セリ(葉) | ヘクソカズラ(花) |
| セイヨウタンポポ(花) | ホタルブクロ(花) |
| タケニグサ(葉) | ヤブカラシ(花) |
| ツユクサ(花) | ヤブタバコ(花) |
| トクワハゼ(花) | ヤブタバコ(花) |
| ドクダミ(花) | ヤマノイモ(花) |
| ナガバジャノヒゲ(花) | ヤマユリ(花) |
| ニワゼキショウ(花) | ユウゲショウ(花)○ |
| | ヨツバムグラ(花) |



リーダーのメモ

秋植物が姿をあらわしてきました。気温がだんだん上がり、汗を拭いながら木陰に入ると耳元にモスキート音。待ちかまえていたかのようにヒトスジシマカも集まりだし、夏の湿地というハードな環境で記録をとる探検隊でしたが、休憩をはさみながらやり通しました。ヌスビトハギ、ハエドクソウなど小さいながらも桃色や紫、白の花を多数つける花序は遠くからも近くからも秋らしい野草の色合いを感じる美しさがありました(坂入)。

8月

8月25日(日)9:30~12:00 晴/無風/33℃

●水海道あすなるの里遊びの森

【調査員】福田藍斗、川畑海翔

【リーダー】常総みどりの会(藤井悟司)

【同定】川田いつ子

観察した種(○印は探検隊が撮影した植物)

- | | |
|------------------|---------------|
| アサザ(植栽)(花)○ | タカサブロウ(花) |
| アキノタムラソウ(花) | ツユクサ(花)○ |
| アメリカヌホオズキ?(花)(美) | ヌスビトハギ(花)(美) |
| アメリカタサブロウ(花) | ノダケ(花) |
| アレチヌスビトハギ(花)(美) | ヒヨドリバナ(花)(美) |
| イヌタデ(花) | ハキダメギク(花) |
| イノコヅチ(花) | ヒメジョオン(花) |
| ウド(葉) | ヒメムカシヨモギ(花) |
| ウリクサ(花) | ヘクソカズラ(花)○ |
| オオヒナノウスツボ(花)○ | ムラサキシキブ(美) |
| オニドコロ(美) | ヤナギイノコヅチ(花) |
| カタバミ(花) | ヤブカラシ(花)(美) |
| カラスウリ(美) | ヤブヘビイチゴ(美) |
| キツネノカミソリ(花) | ヨウシュヤマゴボウ(美)○ |
| キツネノマゴ(花)○ | |
| キンラン(美) | |
| クズ(花) | |
| コヤブタバコ(花) | |
| スズメウリ(花) | |
| シロツメクサ(花) | |
| センニンソウ(花)○ | |
| タラノキ(花) | |
| タケニグサ(花) | |



ツユクサ



ヘクソカズラ



ヨウシュヤマゴボウ

ツル、ツタの草が多くなっていた。林の中(湿地)に葉から出していたりつきでいたり、おもしろいキノコがあった。カヤツリグサもおもしろかった。つくばみらい市/福田藍斗さん

今回暑い中でもいろいろな植物があっただろう。春に咲いていたキンランが実ができていて、長い期間を使って実を作っているすごいと思った。奥の方に、ヌスビトハギが多かったけど、人が来ないからどのように繁殖するのかと思ったけど、イノシシが運ぶと聞いておどろいた。常総市/川畑海翔さん

9月

9月8日(日)9:30~12:00 晴/無風/33℃

●水海道あすなるの里遊びの森

【調査員】福田藍斗、川畑海翔

【リーダー】常総みどりの会(藤井悟司、川畑暁)

観察した種(★印は希少種、○印は探検隊が撮影した植物)

- | | |
|------------------|-----------------|
| アレチヌスビトハギ(花)(美) | コナギ(花) |
| アオハダ(美)○ | センニンソウ(花) |
| アキノタムラソウ(花) | タカサブロウ(花)(美) |
| アキノノゲシ(花) | タケニグサ(美)○ |
| アメリカタサブロウ(花) | タラノキ(美) |
| イヌゴマ(花) | ツルボ(花) |
| イヌタデ(花) | ツユクサ(花) |
| イヌホオズキ(花)(美) | ヌスビトハギ(花)(美) |
| ウシハコベ(花) | ノダケ(花) |
| ウマノスズクサ(美) | ハキダメギク(花) |
| ウリクサ(花) | ハナニガナ(花) |
| オオヒナノウスツボ(花)(美)○ | ヒナタイノコヅチ(花) |
| オニドコロ(葉) | ヒヨドリバナ(花)○ |
| オモダカ(花)(美) | ヤナギイノコヅチ(花) |
| キツネノマゴ(花) | ヤブカラシ(花)(美) |
| カタバミ(花) | ヤマウルシ(美) |
| ガマ(花)(種) | ヤマノイモ(花) |
| カラスウリ(美) | ★ワタラセツリフネソウ(花)○ |
| クズ(花)○ | ワルナスビ(花) |



オオヒナノウスツボ

クズ



▲イノコヅチの名前の由来を聞く



▲名前に秋とつくアキノタムラソウは夏からずっと咲いている



▲気づいたらすぐ図鑑で調べる

ヌスビトハギの実が服にすくたくさんついた。オオヒナノウスツボがあすき色でとてもきれいだった。でも小さすぎてすぐに気づけなかった。つくばみらい市/福田藍斗さん

ワタラセツリフネソウを見て、ツリフネではなく象に見えておもしろかった。イノコヅチの種類が(今回は)ヤナギイノコヅチとヒナタイノコヅチの二種類になっていた。むらさき色のクズの花がきれいだった。常総市/川畑海翔さん

植物の先生から

暑い中の調査で、大変だったと思います。今回の記録の中で気になったのはオオヒナノウスツボとワタラセツリフネソウです。オオヒナノウスツボは、もともと平地では見る機会が少ない植物です。かつて一言主神社の近くにあったのですが、最近は見つからないので気になっていました。また、ワタラセツリフネソウは、旧水海道市で確認されているのはあすなるの里だけです。この両種は、これからも大切に守っていただきたい植物です。

ミュージアムパーク茨城県自然博物館/飯田 勝明

鳥



▲日陰に入って鳥あわせ(7月)



▲木陰で観察ポイントを聞く(7月)



▲カモやシギの仲間を発見(8月)



▲何がいるかな? じっくり観察(8月)

7月

7月7日(日)9:00~11:00

晴/28℃/風の強さ:顔に風をかんじる/風向き:南

●水海道あすなるの里遊びの森~菅生沼ふれあい橋

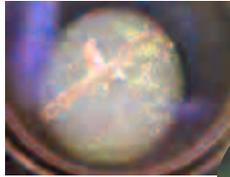
【調査員】竹内 榎、坂田 雪桜

【リーダー】長谷川 としえ

【講師】内田 初江

観察した種(出現順):19種+外来種1種

キジバト
ウグイス
メジロ
スズメ
モズ
サシバ
ハシボトガラス
ハシボンガラス
ヒヨドリ
ホオジロ
ガビチョウ
シジュウカラ



望遠鏡のレンズ越しに撮影!
今年育った若いサシバだ!!

若いサシバ



ハシボンガラス



ホオジロ



キジバト



コチドリ



カワセミ



アオサギ



ダイサギ



カワラヒワ

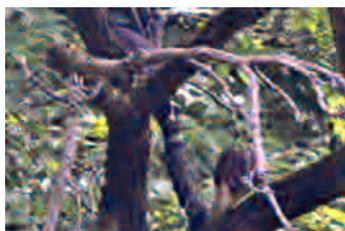
サシバは、子どもがたてじまで大人がよこじまでそうです。サシバは目が良く人の8倍から20倍まで見えて、人間がふつうの望遠鏡で見ている見え方と同じ見え方をしているそうです。サシバはタカ目タカ科です。 千葉県野田市/坂田雪桜さん

リーダーのメモ

今回の調査会は内田先生が解説して下さりとても興味深い調査となりました。「ものさしどり」という言葉を教えてくださいそれを基準として鳥の大きさを測るものだと教えていただきました。次に耳で確認する事を教えていただき、何度もフィールドに足を運んで鳥の声を聴くことが重要であると思いました。サシバの親鳥が餌を取り、それを幼鳥に与える姿、そして幼鳥が飛び立つとき、フンをして態勢を整えてから飛び立つまでずっと解説をしてくださりとても感動しました。当日は無風でとても暑い日でしたが調査員の親御さんやスタッフにも気を配り、自ら保冷剤など用意して下さり、日陰を選んで歩くなど内田先生の深い配慮と優しさに今後の調査のあり方も学ばせて頂きました。とても楽しい調査会となりました(長谷川)。



▲親鳥から昆虫をもらったサシバの幼鳥



▲足で押さえて食べ始めた幼鳥
親鳥は一段高い枝から見守っている

8月

8月25日(日)10:00~11:30

晴/28℃/風の強さ:顔に風をかんじる/風向き:北北西

●水海道あすなるの里遊びの森~菅生沼ふれあい橋

【調査員】坂田 雪桜

【リーダー】坂入 真史

観察した種(出現順):13種+外来種1種

キジバト
カワウ
スズメ
カルガモ
ツバメ
イソシギ
ダイサギ
カワセミ
ガビチョウ
アオサギ



ダイサギとチュウサギ



ガビチョウ



アオサギ



ハシボンガラスとトビ



トビ



▲ハクチョウが採餌するとされるマコモの花を発見!

▲ハクチョウはどこを食べるのかな?

菅生沼のような水がいっぱいあるところや土がいっぱいあるところはえさがあるところかもしれない。キジバト、カワウ、スズメ、カルガモ、ホトトギス、イソシギ、ツバメ、ダイサギ、カワセミ、セグロセキレイ、ガビチョウ、アオサギなどを観察した。 千葉県野田市/坂田雪桜さん

リーダーのメモ

観察が始まると日差しも強まりましたが、木陰を利用し、猛暑ではありませんでしたがじっくり眺める時間を設けました。ふれあい橋からはイソシギやカルガモを発見。ハシボンガラスとトビでは並ぶと大きさの違いにびっくり。休憩中には林内で人目を気にせず鳴き続ける声!?! つも声だけのガビチョウに遭遇しました(坂入)

鳥の先生から

今年は春ごろから毎月サシバが観察されていたので期待していましたが、7月の観察会で、とうとう一緒に行動する親鳥と幼鳥が見られました。サシバはタカの仲間で、鳥の世界では頂点にいます。サシバを育む森には生き物がたくさんいて、それぞれ暮らしながら生態系を築いています。観察していた時、みなさんが静かに見守っていたことが印象に残っています。私たち人間も生き物の仲間で、そっと静かに自然の中に溶け込んで観察している様子が、とても素敵でした。

日本野鳥の会茨城県 副会長/内田 初江

協力: ミュージアムパーク茨城県自然博物館
日本野鳥の会茨城県

自然科学教育普及団体地球レベル

有識者: 内田 初江/林 恵治/川田 いづ子/川村 直央

写真協力: 藤井 悟司/坂田 育代/竹内 明子/長谷川としえ/内田 初江

調査員サポート: 保護者の皆様

ボランティア: 自然観察同好会常総みどりの会

制作: gaia graphics

企画: (一財)水海道あすなるの里 自然教室担当・指導員 坂入 真史

発行日: 2024年11月1日